

## 2018年度法政大学卒業生大学評価アンケート調査結果報告

### <調査概要>

□ 調査の方法（2018年度）

調査対象 2007年度（2008年3月）、2014年度（2014年9月・2015年3月）学部卒業生のうち住所判明者。

調査時期 2018年8月上旬～2018年11月上旬

調査方法 調査票を用いた無記名式による調査。

調査票は、郵送し、返信用封筒（切手不要）にて回収。

□ 年度別回収状況

（1）卒後3年経過者

調査実施年度	対象卒業年度	卒業生数	発送数	回答数	回収率
2018	2014	6,266	5,039	444	8.8%
2017	2013	6,424	5,186	491	9.5%
2016	2012	6,333	5,028	438	8.7%
2015	2011	6,100	4,803	420	8.7%

（2）卒後10年経過者

調査実施年度	対象卒業年度	卒業生数	発送数	回答数	回収率
2018	2007	5,957	3,390	257	7.6%
2017	2006	6,089	3,476	268	7.7%
2016	2005	6,034	3,447	282	8.2%
2015	2004	6,104	3,708	303	8.2%

## <調査結果>

### 1 法政大学および卒業学部に対する満足度

図 2.1.1～図 2.1.4 は、「現時点で、法政大学および卒業学部に対してどの程度満足したと感じていますか」との質問に対する肯定的回答（「満足」＋「やや満足」）の割合を示している。

2018 年度の結果のみを見ると、法政大学に対する満足度の肯定的回答は、卒後 3 年経過者が 92.6%、卒後 10 年経過者が 86.8%であった。入学学部に対する満足度の肯定的回答は、卒後 3 年経過者が 87.4%、卒後 10 年経過者が 79.4%であった。

経年推移を見ると、どれも 2018 年度回答者の肯定的回答の多さが目立つが、学部満足度は肯定的回答が増加傾向にあるように見える。また、どの調査年度においても、学部満足度が大学満足度よりやや低い傾向が見られる。

図 2.1.1 法政大学に対する満足度（卒後 3 年経過者：経年推移）

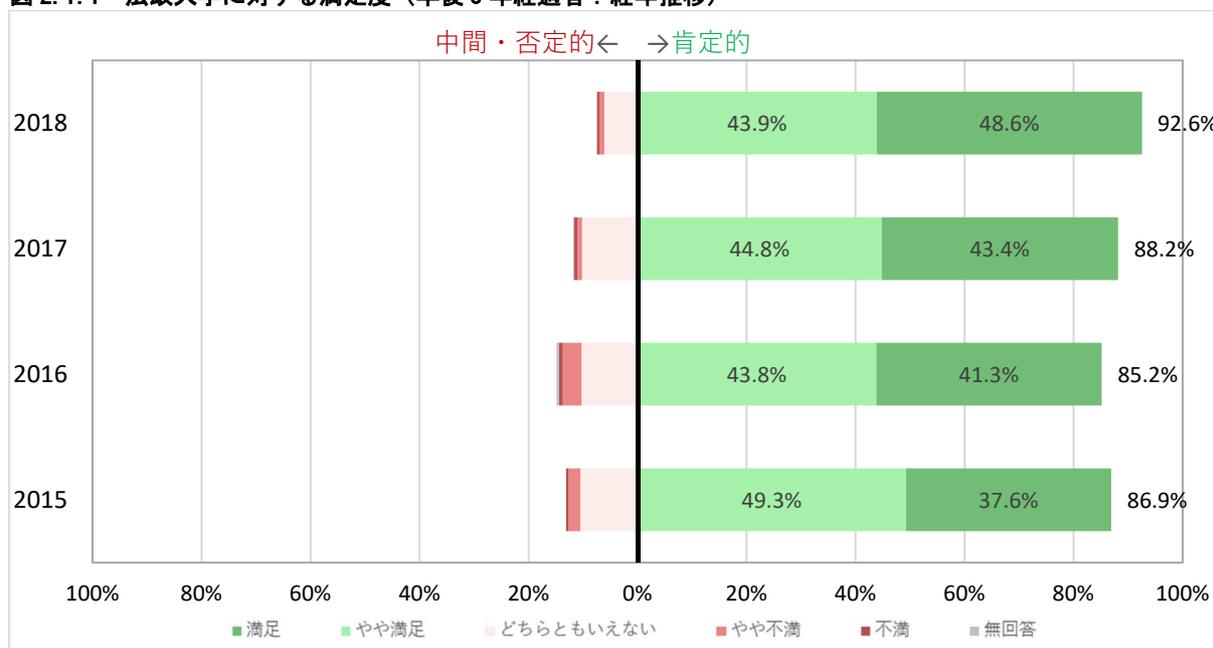


図 2.1.2 法政大学に対する満足度（卒後 10 年経過者：経年推移）

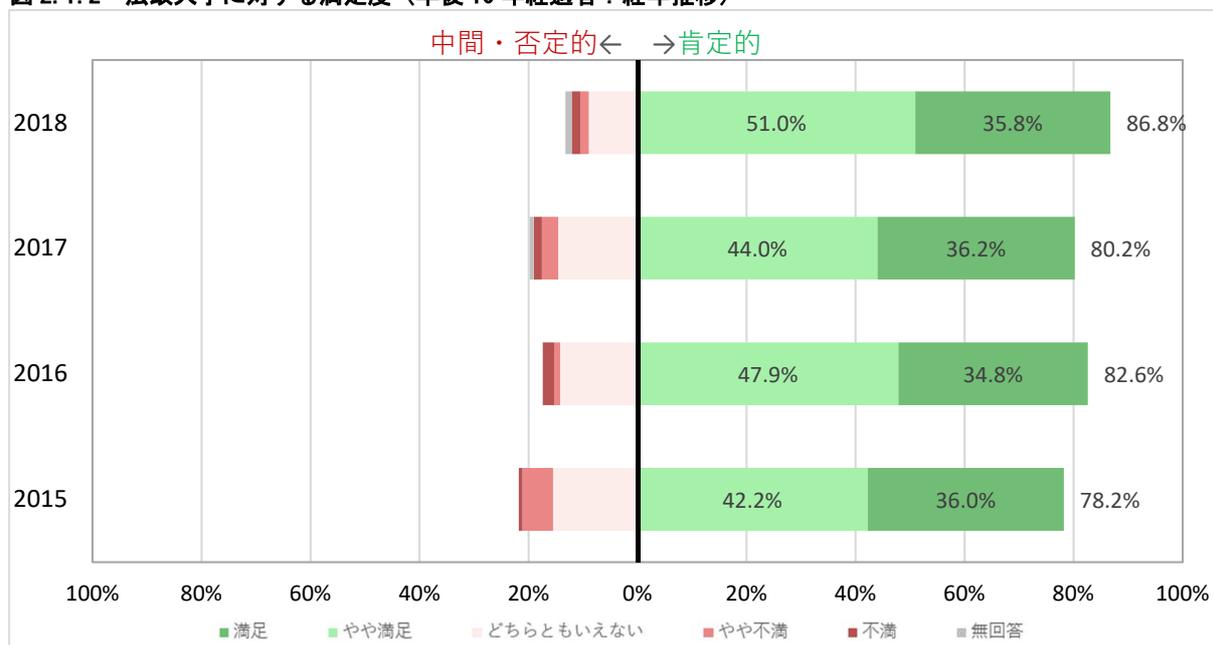


図 2.1.3 学部に対する満足度（卒後3年経過者：経年推移）

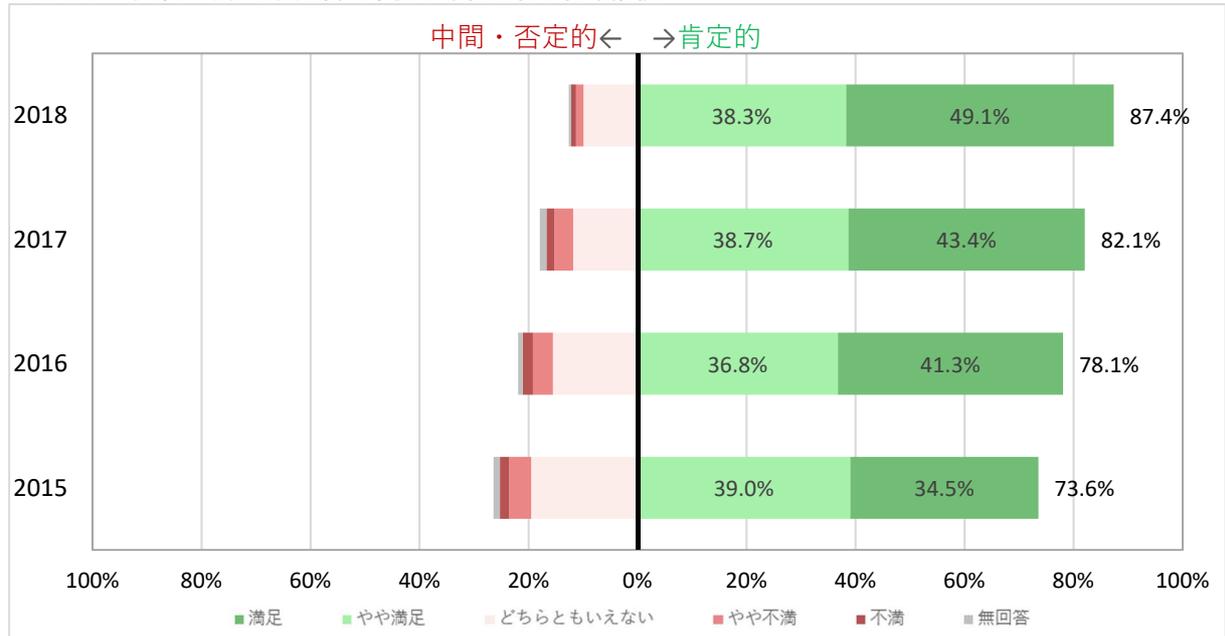
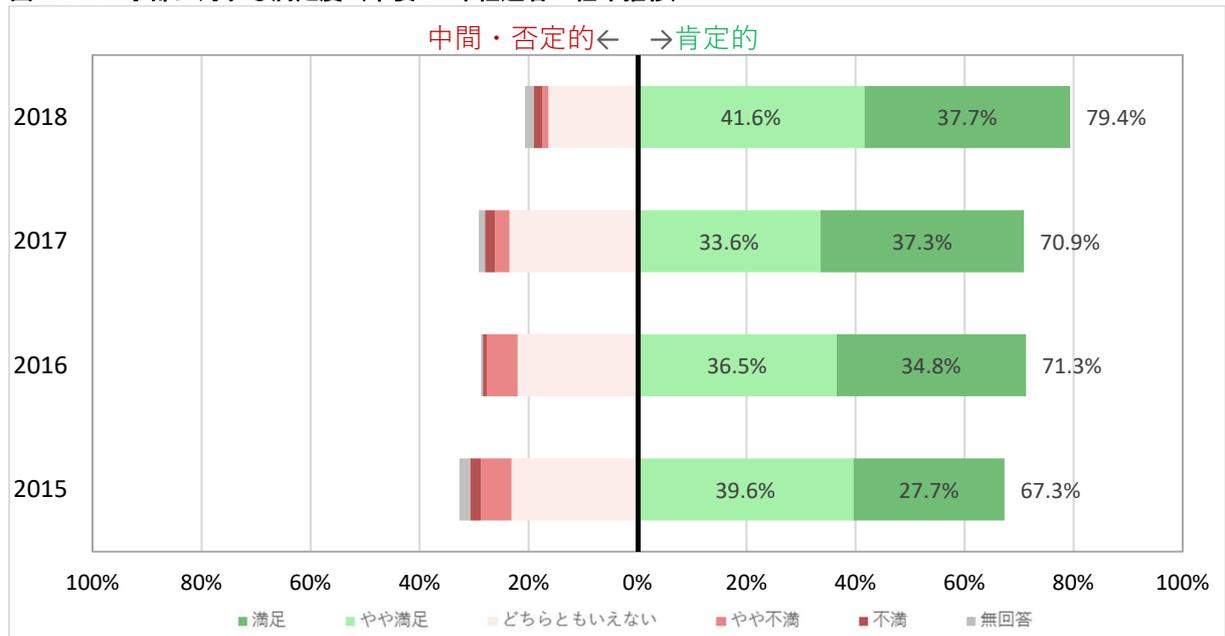


図 2.1.4 学部に対する満足度（卒後10年経過者：経年推移）



## 2 大学での授業や活動を通して身につけた能力

図 2.2.1～図 2.2.4 は、「大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか」との質問に対する各項目の肯定的回答（「そう思う」＋「いづらかそう思う」）の割合を示している。

卒後 3 年経過者、卒後 10 年経過者ともに、「幅広い教養」（それぞれ、76.6%、74.7%）が最も高く、「コミュニケーション能力」（それぞれ、74.5%、70.8%）、「自己判断能力」（それぞれ、72.7%、67.7%）と続いている。

経年推移を見ると、満足度と同様、卒後 3 年経過者、卒後 10 年経過者ともに 2018 年度回答者の肯定的回答の割合の高さが目立つ。これは、調査票のデザインや質問の順序を変更（2017 年度までは設問 3、2018 年度は設問 2 で質問）した影響も考えられるが、卒後 3 年経過者に限れば、「専門性」「幅広い教養」などの肯定的回答は増加傾向にあるように見える。

図 2.2.1 大学での授業や活動を通して身につけた能力（卒後 3 年経過者：降順） ※2014 年度卒業生

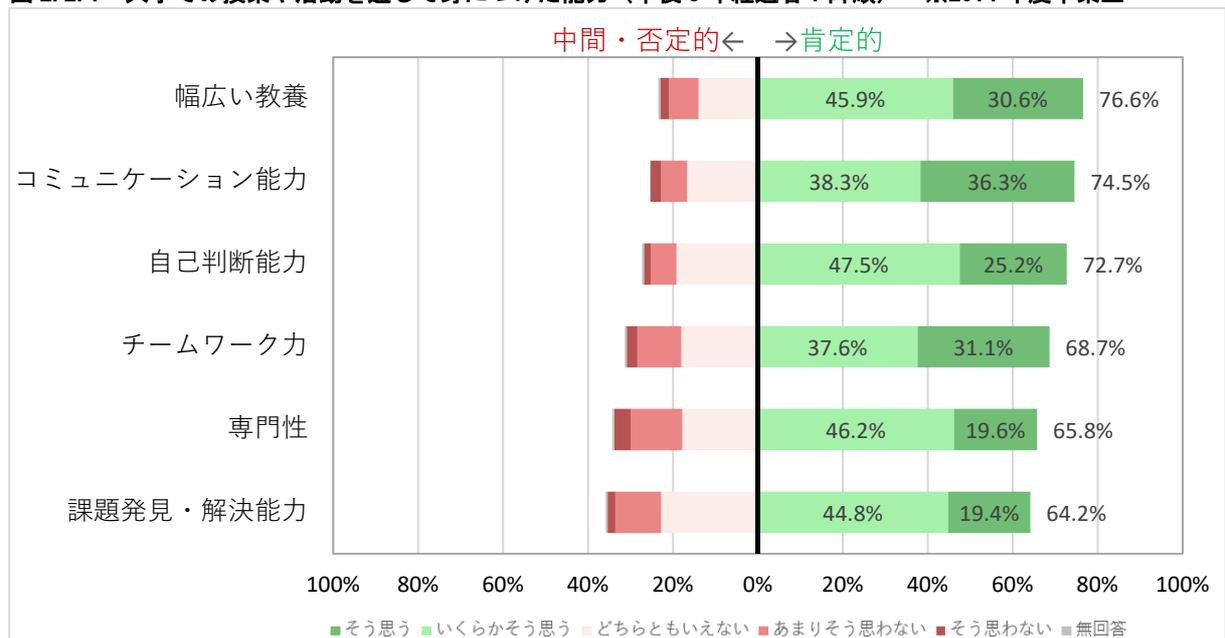


図 2.2.1 大学での授業や活動を通して身につけた能力（卒後 10 年経過者：降順） ※2007 年度卒業生

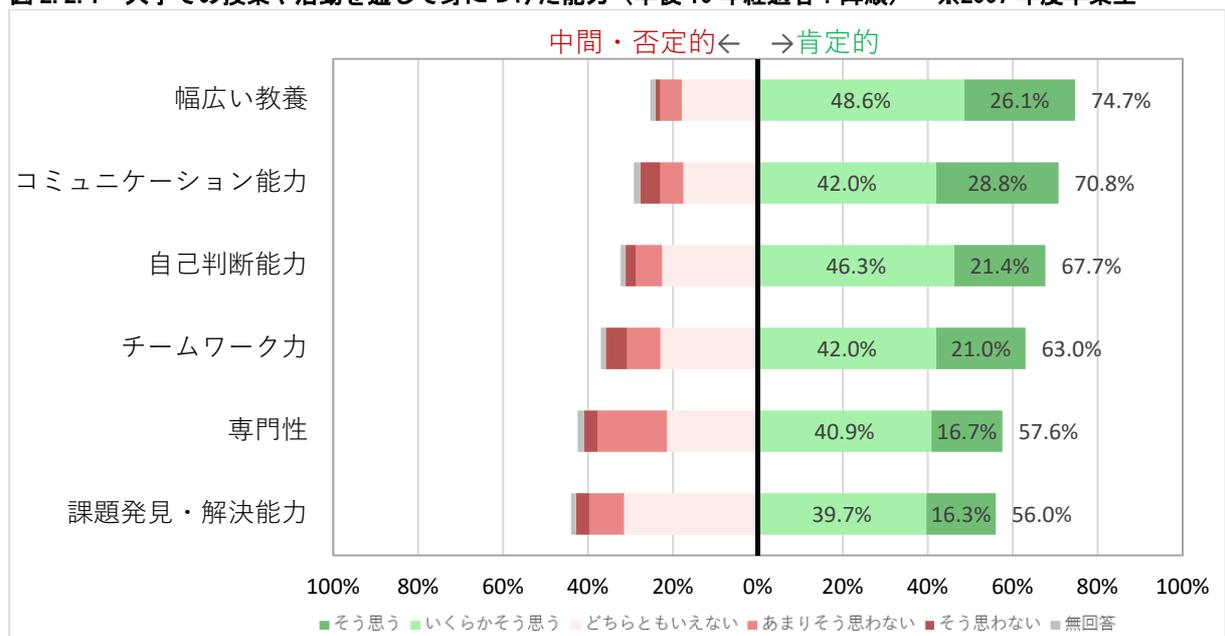


図 2.2.3 大学での授業や活動を通して身につけた能力（卒後 3 年経過者：経年推移）

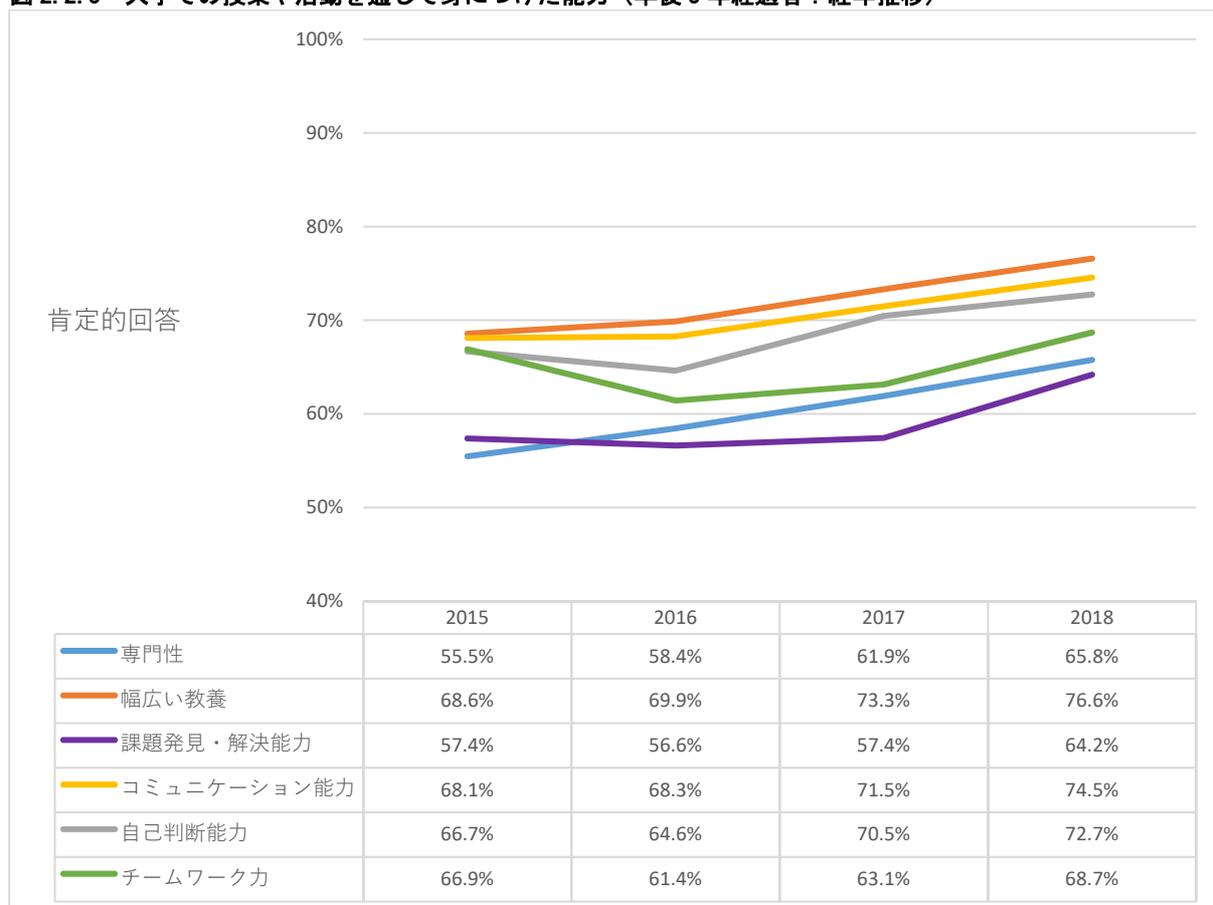
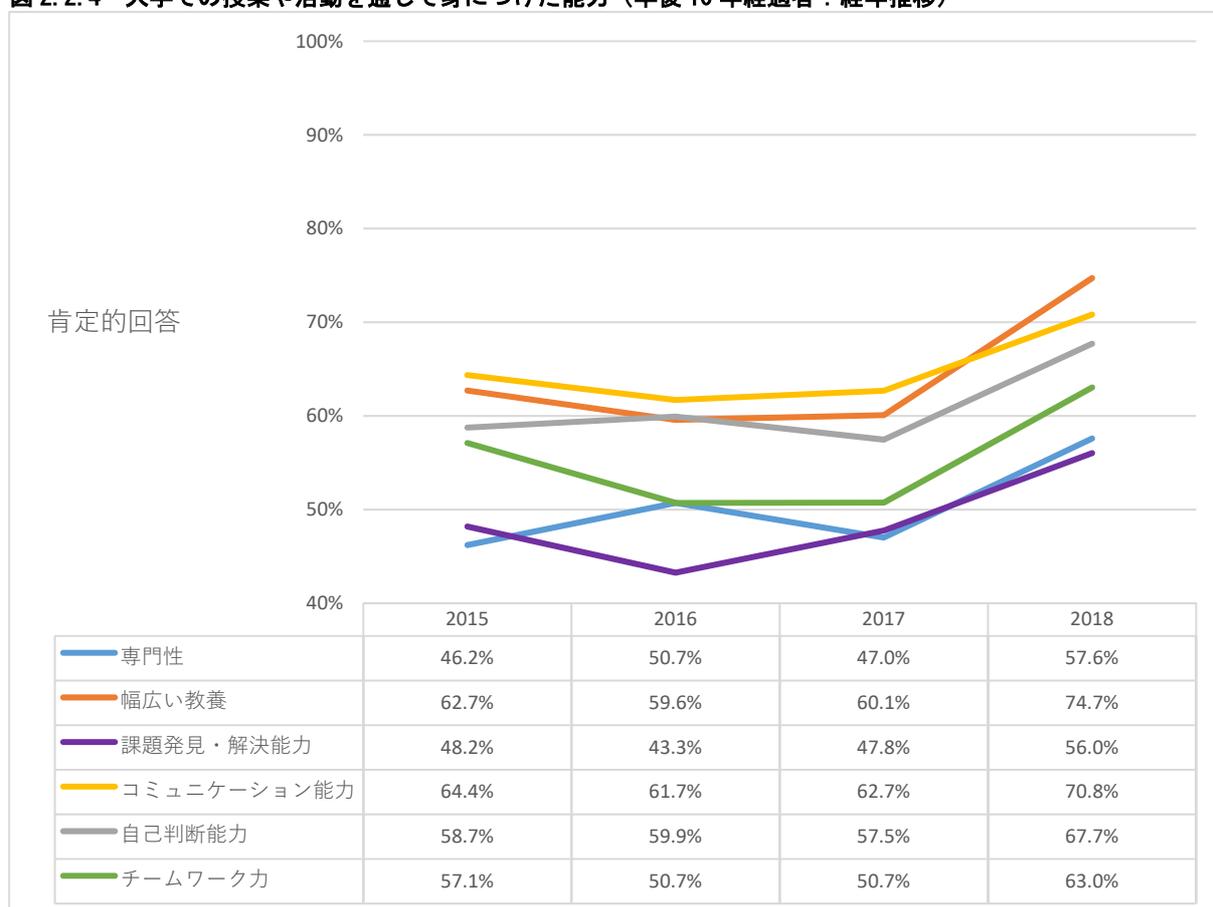


図 2.2.4 大学での授業や活動を通して身につけた能力（卒後 10 年経過者：経年推移）



### 3 法政大学の評価（イメージ）

図 2.3.1 及び図 2.3.2 は、「法政大学は社会からどのように評価されていると思いますか」との質問に対する肯定的回答（「そう思う」＋「いづらかそう思う」）の割合を示している。

卒後3年経過者、卒後10年経過者ともに、肯定的回答の割合が高い順に「卒業生の活躍」（それぞれ、72.7%、71.6%）が最も高く、「社会的評価」（それぞれ、68.5%、66.1%）と続いている。一方、「国際交流」は、卒後3年経過者が50.0%、卒後10年経過者が41.6%であり、3年経過者のほうが肯定的回答の割合が高く、他の項目よりも%ポイント差が大きい。

図 2.3.1 法政大学の評価（イメージ）（卒後3年経過者：降順） ※2014年度卒業生

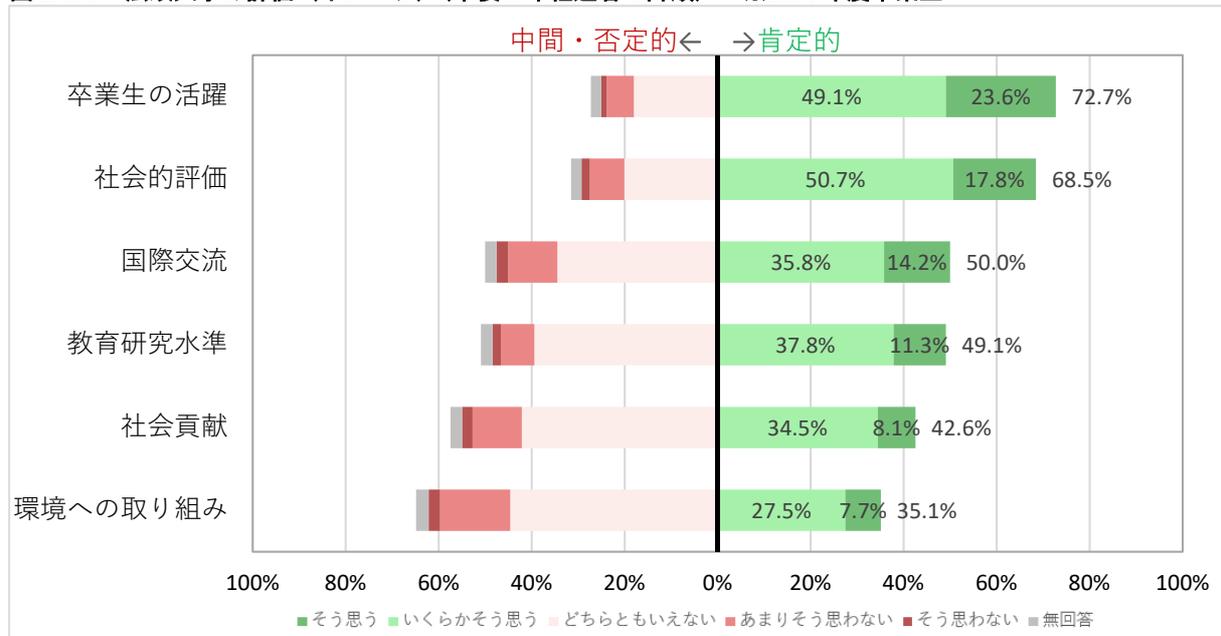
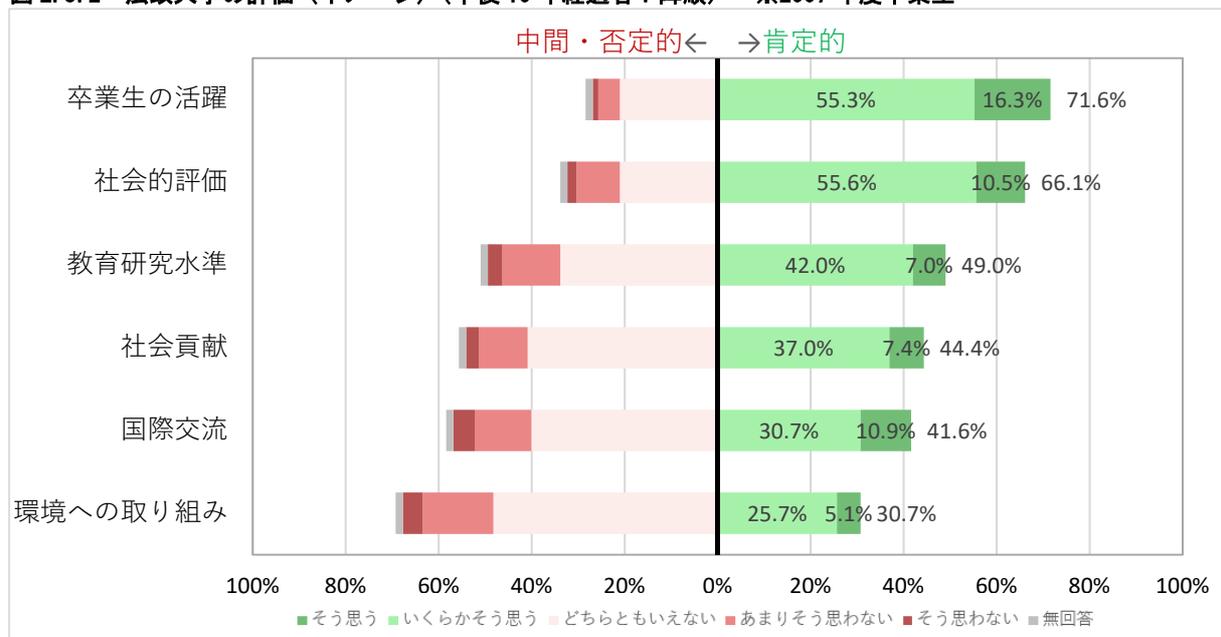


図 2.3.2 法政大学の評価（イメージ）（卒後10年経過者：降順） ※2007年度卒業生



#### 4 本学が今後さらに充実すべき点

図 2.4.1 及び図 2.4.2 は、「法政大学が、今後さらに充実すべき点は何だとお考えですか」との質問に対する各項目の充実すべき度合いの強さ（「強い (5)」 + 「4 (やや強い)」) の割合を示している。

卒後 3 年経過者、卒後 10 年経過者ともに、「教養教育」（それぞれ、84.0%、82.5%）、「専門教育」（それぞれ、78.4%、82.9%）、「英語教育」（それぞれ、75.2%、81.7%）への充実すべき度合いが高い。

図 2.4.1 本学が今後さらに充実すべき点（卒後 3 年経過者：降順） ※2014 年度卒業生

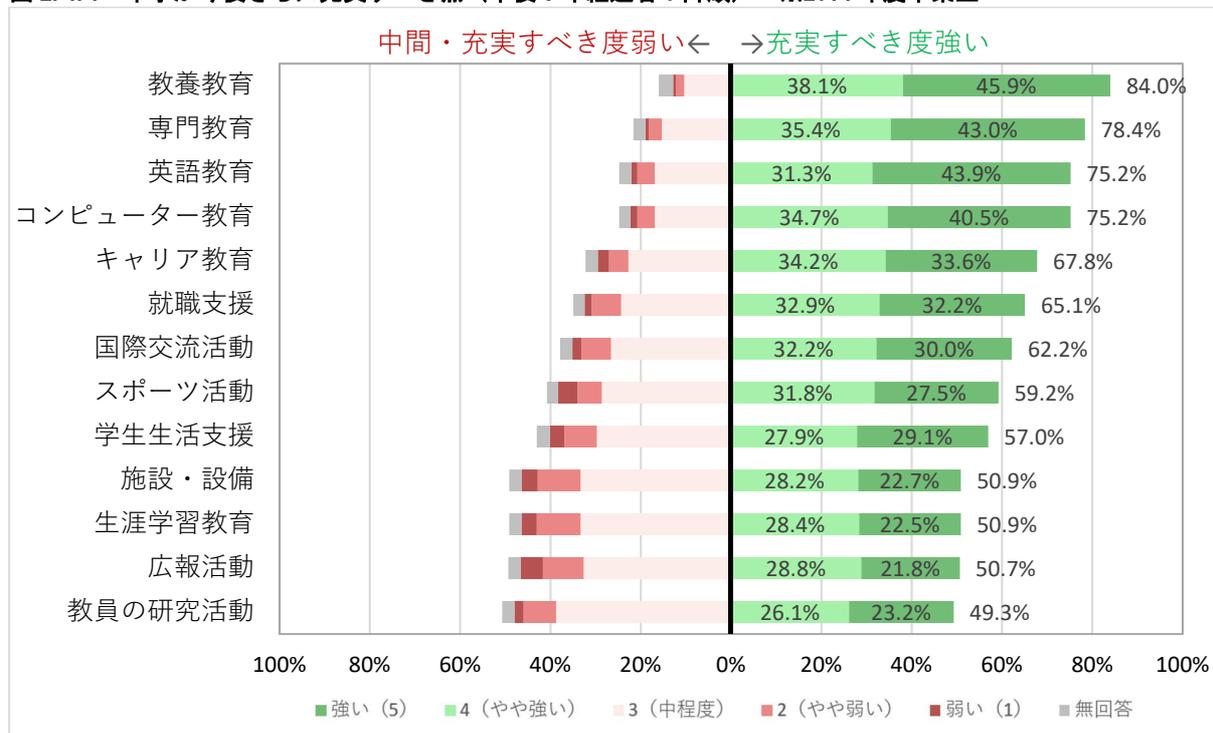
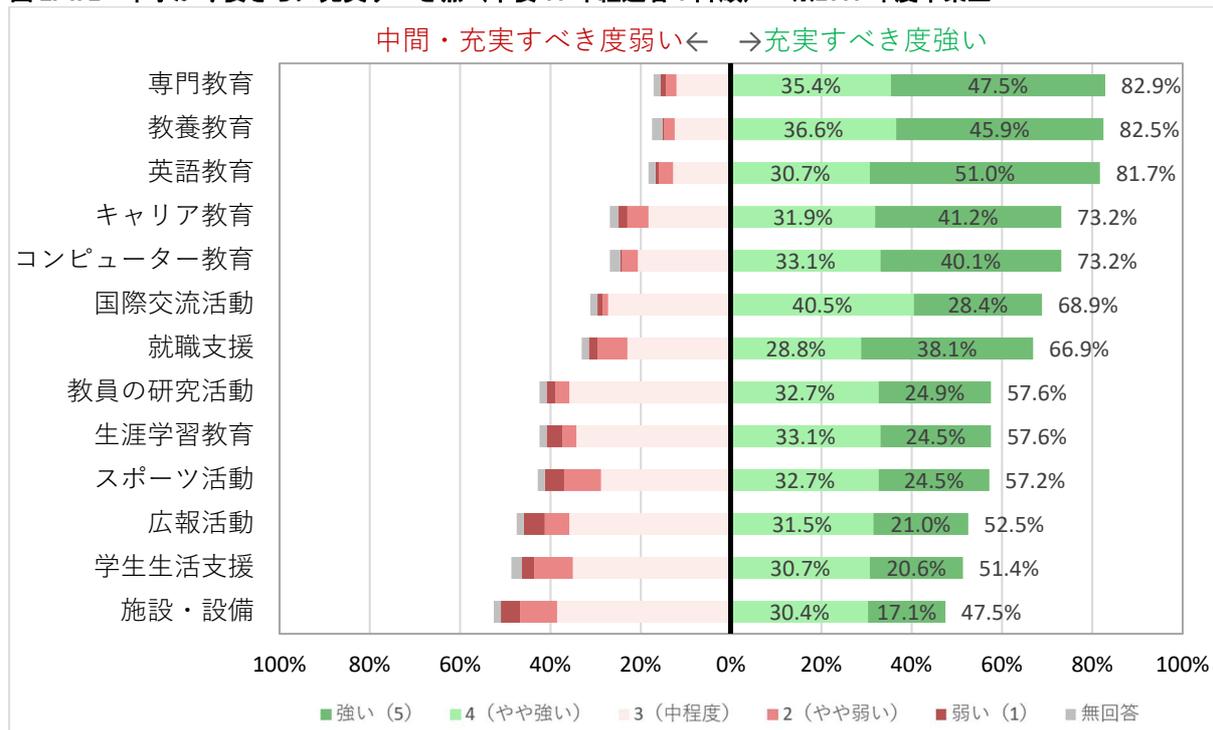


図 2.4.2 本学が今後さらに充実すべき点（卒後 10 年経過者：降順） ※2007 年度卒業生



## 5 法政大学を勧めたいと思うか

図 2.5.1 及び図 2.5.2 は、「もし身近に四年制大学への進学希望者がいる場合、法政大学を勧めたいと思いますか」との質問に対する肯定的回答（「強く勧めたい」＋「勧めたい」）の割合を示している。

2018 年度の結果のみを見ると、肯定的回答は卒後 3 年経過者が 76.8%、卒後 10 年経過者が 72.4%であった。

経年推移を見ると、どちらも肯定的回答の割合が増加しているが、2018 年度から調査票のデザインや質問の順序を変更（2017 年度までは設問 2、2018 年度は設問 5 で質問）したことによる影響もあると思われる。

図 2.5.1 法政大学を勧めたいか（卒後 3 年経過者：経年推移）

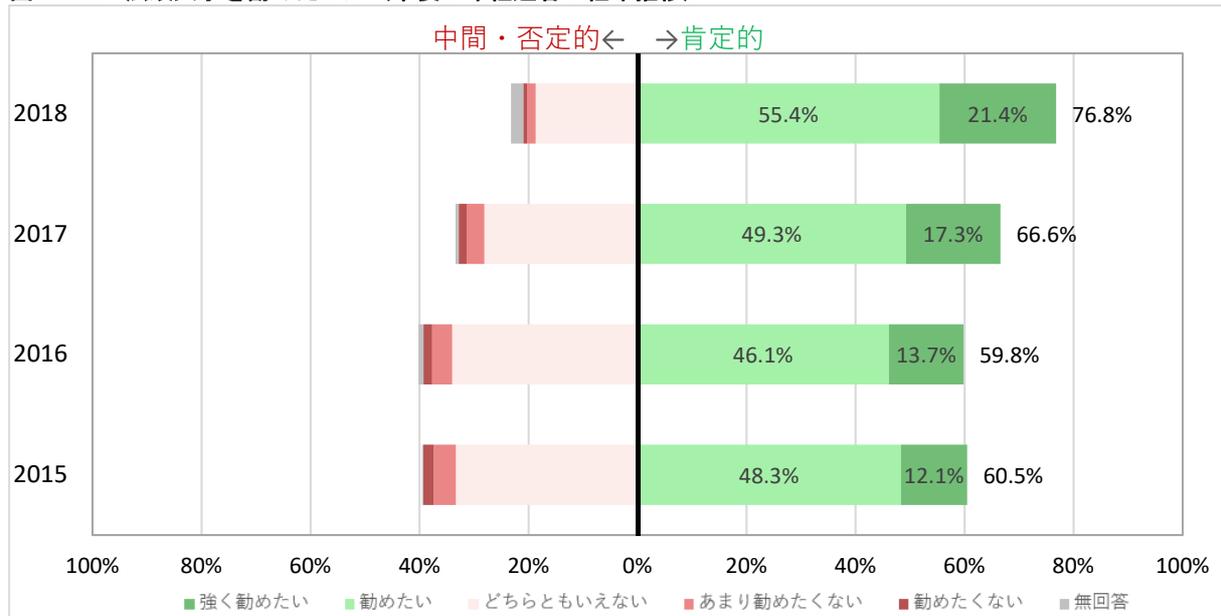
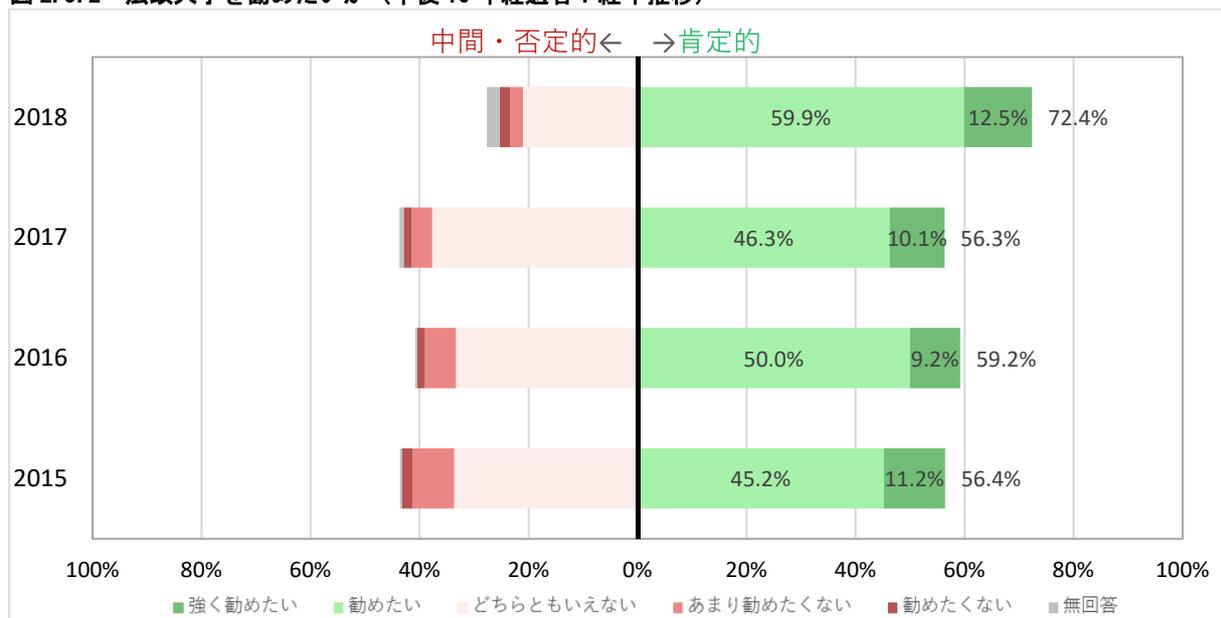


図 2.5.2 法政大学を勧めたいか（卒後 10 年経過者：経年推移）



以上